

## <共通論題>

### 経常収支の現状と今後の展望—アベノミクスを成功させるために—

財務省国際局長 東京大学総合文化研究科客員教授 浅川雅嗣

我が国の経常収支黒字幅は、2010年の19.1兆円から2014年には2.6兆円と、16.5兆円減少した。所得収支は4.5兆円改善したものの、貿易収支が19.9兆円減少しており、経常収支悪化の要因のほとんどは貿易収支の赤字拡大で説明できる。

経常収支が仮に赤字になるとすれば、それは我が国のISバランス上海外から資金を調達する資本構造になることを意味する。当然財政部門の赤字を縮小させる努力は不可避であるが、今後家計部門の貯蓄増加がほとんど期待できない中で企業部門の投資、資金需要が高まっていったときに、資金供給を海外部門に依存せざるを得なくなるもののリスクは決して過小評価できない。

それでは、約20兆円にもなる貿易収支赤字拡大の原因はどこに求められるであろうか。誰でも思い浮かべるのは、大震災後の原発稼働停止から来る鉱物性燃料(原油、天然ガス等)の輸入増であろう。実際2010年と2014年とを比較してみると、鉱物性燃料の輸入額は17.4兆円から27.2兆円へと、10.3兆円拡大している。ところが、意外なことにこのうち原発停止で説明できる輸入額増は、3.7兆円に過ぎない。むしろ原油価格自体の上昇や、円安の影響が鉱物性燃料輸入増の大きな割合を占めると思われる。

これに加え、我が国の対中、対EUの2国間の貿易バランスを見ると、2010年から2014年にかけて輸出額はほとんど増加してない一方で、輸入額が大きく伸びることにより、貿易収支が両方合わせて7.8兆円悪化していることがわかる。

ここからいえるのは、我が国の貿易収支悪化の構造的要因としては、交易条件の悪化が極めて大きな要素であるということである。実際、2000年以降米国、英国、独などの主要先進国の交易条件はほぼ横ばいであったのに比べ、我が国の交易条件は約4割悪化している。これは、鉱物性燃料の輸入価格が上昇する一方、我が国の貿易産業がアジア等新興国、途上国との価格競争に巻き込まれ、結果として輸出価格の下落を避け得なかったことから、交易条件が劇的に悪化したものと考えられる。今後は、我が国の輸出財をより高付加価値化することにより輸出価格の悪化を防ぐとともに、鉱物性燃料の調達先の多様化などを進め輸入価格の抑制に努めることが、政策的に重要であろう。

それと同時に、我が国の稼ぎ方を変えて、海外での所得を増大させることによって経常収支の黒字を維持していく必要がある。具体的には、モノの輸出だけではなく我が国の技術力、ノウハウを海外に展開することによって、使用料収入が得られるが、我が国のネットの使用料収支は2003年に黒字に転じて以降、黒字幅を拡大し続けている。さらに、我が国の海外直接投資の収益率をさらに高めることにより、所得収支黒字をさらに拡大させていく方策が必要である。

かくして、アベノミクスの成功の鍵を握るであろう安定的な実質金利を維持するためには、経常黒字の維持は重要である。そのために我々の発想のベースをGDPからGNIに切り替え、海外市場まで視野に入れた我が国の稼ぐ力をいかに増大させるかが、これからの我が国のマクロ経済の安定にとって極めて重要な課題となるであろう。